

来週の市場とレート予想

	4/24(月)	4/25(火)	4/26(水)	4/27(木)	4/28(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△1,000	△2,000	△2,000	△3,000	△4,000
財政他	△29,800	+13,000	+3,000	+3,000	+2,000
資金需給	△30,800	+11,000	+1,000	ト ン	不 2,000
主な要因	申告所得税揚げ 国庫短期証券発行・償還 (3M) 国債発行(20年)	地方消費税の払い込み			交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △1,800 CP等買入 △500 国債補完供給 +1,700				
オベスタート	共通担保(全店) +1,800 ETF買入 +700 社債買入 +800	国債買入 +3,700 短国買入 +10,000			
(日本)	日本銀行が保有する国債の 銘柄別残高 日本銀行による国庫短期証券の 銘柄別買入額 日銀営業毎旬報告 (4月20日現在)		日銀金融政策決定会合(1日目)	日銀金融政策決定会合(2日目) 展望レポート発表 黒田日銀総裁会見	日銀、当面の長期国債等の 買入の運営について CPI(全国3月、東京都区部4月) 完全失業率(3月) 家計調査(3月) 有効求人倍率(3月)
(海外)	米 ミネアポリス連銀総裁講演	米 FHFA住宅価格指数(2月) 米 新築住宅販売件数(3月) 米 消費者信頼感指数(4月)		米 耐久財受注(3月) 米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 中古住宅販売成約指数(3月) 欧 ECB定例政策委員会、 ドラギECB総裁記者会見 欧 ユーロ圏景況感指数(4月)	米 1-3月GDP(速報値) 米 シカゴ製造業景況指数(4月) 米 シカゴ大学消費者マインド 指数(4月) 米 ファイナルファイブ連銀総裁講演 米 トランプ大統領、全米ライフル 協会(NRA)の年次総会で演説 欧 ユーロ圏CPI(4月速報値) 欧 ECB予想専門家調査

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

17日の日銀当座預金残高は、前週末対比2兆4,800億円減少の354兆3,600億円から始まった。短国・国債買入オペを主因に19日には358兆円台まで増加し、短国・国債の発行要因等から週末には356兆8,100億円となった。  
無担保コール市場では、新積み期間に入り資金余剰感が強く、前週に比べ弱い地合いとなった。19日までON物加重平均金利は△0.056%~△0.053%で推移し、ターム物では積み期間内で△0.035%~△0.02%のレンジで出合いが散見された。20日以降はさらにビッドが弱含み、21日のON物加重平均金利は△0.066%まで低下、積み期間内のターム物では△0.05%まで出合いが見られた。  
19日新発10年物国債利回りは一時0%をつけ昨年11月16日以来の水準となった。  
来週は、国内で26日~27日に日銀金融政策決定会合が開かれ、結果発表時に展望レポートが公表、黒田総裁の会見が行われる。また28日にはCPI(全国3月、東京都区部4月)や有効求人倍率が公表される。海外では、ECB定例政策委員会とドラギ総裁の記者会見(27日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.001
TDB 3M	△0.100 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約6,800億円で、20日・25日と五・十日発行が重なったことから、週間償還額の約2,800億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に上回る結果となった。新発物の発行レートについては、引き続き投資家の旺盛な運用ニーズにより、0.001%割れと横這い推移の出合いとなった。  
来週の発行市場は、月末日スタートの大量発行が予想されるため、償還額の約8,000億円に対し発行は増加し、活況が予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズは変わらず、横ばい推移となるだろう。  
現先レートは△0.10%~0%程度の出合いで、低位横ばい圏での動きを予想する。  
25日に、CP等買入れオペのオファー(3,500億円程度)が予定されている。

<TDB>

20日に国庫短期証券3M第678回債の入札が行われ、最高落札レートは△0.1343%(前回債△0.1070%)、平均落札レートは△0.1427%(同△0.1213%)と前回債から利回りが低下した。セカンダリー市場では△0.17%近辺の推移となった。1Y第677回は△0.20%程度の出合となっている。6Mは目立った出合いは見られなかった。来週は26日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.10%を下回る出合いも一部見られたが、週央にかけては△0.10%近辺の取引が中心となった。短国3Mの発行日となる24日受渡しは△0.09%まで小幅上昇、週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされ、△0.095%近辺での出合いとなり越週した。  
SC取引は先週同様5年債カレント近辺のbidが多く、130回債は週を通して△0.60%台の出合いが中心。131回債は入札日前日の19日受渡しで△0.80%を下回る出合いも一部見られた。その他2年374・375回債、5年130回債、10年333・334・344・345・346回債、20年158・159回債、30年52・53・54回債などに引き合いが多く見られた。